

「新たな出発」

ヨハネ 11:32～45

鷺の生涯を知っていますか。鷺は40歳くらいになると餌をとるためのくちばしは曲がり、羽も衰えてきます。だからこの時2つの選択に迫られます。1つはそのまま死んでしまう、そしてもう一つは、もう一度一人丘の頂に立ち、古びたものをすべて新しくしてもう一度飛び交うという選択です。これは私たちの人生によく似ています。私たちの人生の中にもそんな選択を迫られることがあったのではないのでしょうか。

■ ラザロのよみがえり

(ヨハネ 11:32～45)

ここにはラザロのよみがえりの記事がのっています。「死人が生き返る」これはすごく興奮する出来事ですが、ここから私たちの生きる指針を見てみます。

① 霊的憤り

「そこでイエスは、彼女が泣き、彼女といっしょに来たユダヤ人たちも泣いているのをご覧になると、霊の憤りを覚え、心の動揺を感じて、言われた。「彼をどこに置きましたか。」彼らはイエスに言った。「主よ。来てご覧ください。」(ヨハネ 11:33、34) 普段のイエス様は優しくして平安に満ちています。しかしここでは「憤った (grown spirits 深いうめき)」とあります。何に憤っていたのでしょうか。

「ラザロよ出てきなさい」(43節) ラザロという言葉は「主の助け」ということです。つまり「なぜラザロ (主の助け) を墓に埋めたのだ」と憤っているのです。マリヤのように信仰を持っている人がいるのに、普通の人と同じように愛するラザロが死んでただ泣いていた、そのことに対して憤っていたのです。私たちの人生の中には「どうしてこんなことが」「なぜ」ということが起こります。しかしここで私たちは逃げるのではなく、立ち向かっていくといくことをイエス様は教えています。そして立ち向かうためには、主の助けに私たちのベクトルを合わせて「神様助けください」そのように祈れるようになることが大切なのです。

② 主の栄光

「そこで、マリヤのところに来ていて、イエスがなされたことを見た多くのユダヤ人が、イエスを信じた。」(45節)

神様のすることはすべて神様の栄光につながります。だから自分自身の成功のために神様を利用してはいけません。

教会は、不可能を可能にされる神様が私たちを導いて御心を成し遂げる場所です。だから私たちはしっかりとその神様の声を聞き分け、たたかうべきときはたたかい、人々の悩みや問題にふれる「生きた証人」となる必要があるのです。そのために私たちに必要なことは「あきない」「あせらない」「あきらめない」ということです。

そして「そんなことあるはずがない」「それはあるかもね?」「そうか!絶対そうなる」・・・私たちの信仰が「そうか!絶対そうなる」となったとき、見たことも聞いたことも心に浮かんだことのないようなことが起こるのです。

③ 先取り感謝 (領収書)

「こうしてください」「こうなりますように」とあきらめずに祈る祈りは「請求書」の祈りです。これもとても大事です。しかし先に進むために必要な祈りは「領収書の祈り (将来を今の時点で「完了」する祈り)」です。これは「現在の時点で、将来を支配していく」という祈りです。

「そこで、彼らは石を取りのけた。イエスは目を上げて、言われた。「父よ。わたしの願いを聞いてくださったことを感謝いたします。」(41節) イエス様も先取り感謝の祈りを捧げています。私たちもどんなときでもこの「先取り感謝 (領収書) の祈り」を捧げていきましょう。

まとめ

ラザロ (主の助け) を墓に埋めている人はいませんか?もし埋めているとしたら、今日から「ラザロよ出てきなさい」そう言える信仰を持ちましょう。そして領収書の祈りを捧げていきましょう。必ず奇跡が起こります!そして神様に栄光をかえす人生にしていきましょう。

(要約者:岩崎 祥誉)

(5月7日)